



2022年4月1日、令和4年度新入職員の入職式が、代々木・オリンピックセンターで行われました。新たな12名の仲間とともに、職員が一丸となって、地域福祉のニーズにお応えすべく、邁進いたします。

1. 令和4年度の目標  
「福祉の基本は人」という原点に立ち返り、人材の採用・育成・定着に注力する一年とします。

2. 事業方針

**令和4年度事業方針**

日頃は、社会福祉法人いたるセンターに多大なるご支援ご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症との闘いが始まってから2年が経過しましたが、新たな変異ウイルスの出現により、これまでにない感染再拡大となり、予断を許さない状況が続いております。法人内でも、多くの事業所で感染者が出ましたが、幸いなことに重傷者は出ておりません。今後も感染対策を徹底し、ご利用者様および職員が安全安心に過ごせるよう尽力する所存です。さてこの度、令和4年度の「社会福祉法人いたるセンター・事業方針」を策定いたしましたので、ご報告申し上げます。

(1) 人材の採用・育成・定着に向けた取組の強化  
① 人材の育成・定着に向けた取組の強化  
職員の処遇改善を図るとともに、専門性を向上させる各種研修を実施します。また、虐待防止・権利擁護の意識をさらに高め、第三者機関によるメンタルヘルス対策も進めます。

(2) 働きやすく安全安心な職場環境の再整備  
各職階間・各事業所間・職員間のコミュニケーション不足を解消するため、自己申告制度等を活用して、風通しの良い法人・事業所を構築し、利用者支援の質を向上させます。

(3) 中長期事業計画の策定  
法人の内部環境・外部環境の分析を行い、中長期的な事業計画を

策定するとともに、コロナ感染症対策を含めたBCP（事業継続計画）に基づく研修・訓練も実行します。

(4) 共同生活援助（グループホーム）施設の老朽化対策  
老朽化した共同生活援助（グループホーム）施設について、移転や建て替えを進め、ご利用者様の安全安心な地域生活の充実を図ります。

(5) ご利用者様の地域包括支援を充実させる医療事業への挑戦  
法人の地域包括ケア構想の一環として、医療ドメインの事業強化を図り、在宅医療の提供により地域還元および利用者還元に貢献します。

以上、健全で安定的な財務基盤を確立するとともに、法令等遵守の徹底、人権の尊重、包括的支援の充実、サービスの質の向上、安全安心な環境整備に努め、多様な地域福祉ニーズにこたえてまいります。

今年度もどうぞ変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

**社会福祉法人いたるセンター 令和4年度 法人事業方針**

社会福祉法人いたるセンター 理事長 谷山 勝崇



**目次 contents**

- 01 社会福祉法人いたるセンター 令和4年度 法人事業方針 谷山勝崇理事長
- 02 令和4年度 事業部方針 (重点目標)
- 03 \* 法人本部  
\* あけぼの作業  
\* パン工房クブク  
\* クローバー・マルコ  
\* 阿佐谷福祉工房  
\* イタル成城  
\* ピヨピヨおうちえん  
\* HOYA事業  
\* 目黒本町福祉工房  
\* すまいる高井戸  
\* 包括ケアセンター・グループホーム  
\* サポートウイズ  
\* SDGs推進室
- 04 人事異動のお知らせ 令和3年度第4回職員研修、2月19日に開催 採用関連情報

**いたる賛助会入会のご案内**

「いたる賛助会」では「いたるセンター」の活動を支援していただける方を募集しています。

「幸せな地域社会を作りたい」がこの会設立の趣旨であります。

年会費 1口5千円（何口でも可）  
郵便振り込み 00110712892  
口座 339217346 事務局 山本まで

**人事異動のお知らせ**

令和4年2月1日および4月1日付け、施設長の異動がありましたので、ご報告するとともに、就任のご挨拶をさせていただきます。

**阿佐谷福祉工房 新・施設長**  
齋藤直人（マネジャー）

令和4年2月1日より、阿佐谷福祉工場の施設長に就任しました齋藤直人と申します。阿佐谷福祉工房では約9年の間、就労継続支援B型事業部を担当してまいりましたが、施設長としての経験はありませんが、少しでも早く業務に慣れるよう精進してまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。

**あけぼの作業所 新・施設長**  
池田佳津男（ゼネラルマネジャー）

令和4年4月1日付で阿佐谷福祉工房から、あけぼの作業所の施設長として着任いたしました池田佳津男と申します。法人内では3か所目の通所施設での勤務となります。まだ不慣れなことも多々ありますが、ご利用者様ならびに保護者の皆様喜んでいただけるよう、そして安心安全な施設運営を目指したいと思っております。ご支援ご協力の程、何卒よろしくお願申し上げます。

**目黒本町福祉工房 新・施設長**  
高木知子（マネジャー）

この度、令和4年4月1日付で目黒区立目黒本町福祉工場の工場長に就任しました高木知子です。いたるセンターには平成24年より勤めており、阿佐谷福祉工房、パン工房クブク、あけぼの作業所を経て今回の異動となりました。ご利用者の皆様が安心して過ごしたいだけよう努めるとともに、地域に根差した施設づくりを実現するために、微力ではございますが努力してまいりますので、よろしくお願申し上げます。

**ピックアップいたる**

**令和3年度第4回職員研修、2月19日に開催。**

**聖学院大学・心理福祉学部の大橋良枝教授をお招きし、『ネガティブ・ケイパビリティ』について学びました。**

令和4年2月19日（土）、令和3年度第4回職員研修を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、今回もZOOMによるリモート研修となりましたが、179名の常勤職員が参加。今回は知的障害特別支援学校での心理的支援を通じた、本格的な学術論文を発表されている大橋教授をお迎えしました。投影性同一化やネガティブ・ケイパビリティといったキーワードから、困難事例に当たるチーム支援の在り方を考える機会をいただきました。アンケート結果では、特に「チームが安心感を作り出せば、孤立せず、分らなさ・難しさに耐えられる」という結論が印象に残ったという意見が多く、あらためてチーム支援の重要性を再確認しました。各事業部の支援例では、「ピヨピヨおうちえんの支援の実際」（小谷悦子・黒川幸恵・両園長）を紹介。小規模保育事業のサービスの流れを動画で視聴し、コロナ禍での徹底した消毒作業や、「おうち」さながらのあたたかな保育園の雰囲気や、あらためて共有しました。今回の受講後アンケートでも、テーマ・レクチャーともに90%以上の満足度を得ることができました。

今回もZOOMによるリモート研修となりましたが、参加人数が多いにもかかわらず、スムーズに受講できました。

不確かさや分らなさの中にあつて、事実や理由を性急につかもうとせず、そこに居続けられる個々の力が重要となります。

**いたる広報委員**

発行責任者＝谷山 勝崇  
社会福祉法人いたるセンター  
〒167-0032 東京都杉並区天沼1-15-18  
TEL: 03-3392-7346  
FAX: 03-3391-8039  
Eメール: info@itarucenter.com  
HP: http://www.itarucenter.com/  
発行日/2022年4月15日

ご意見・ご感想がございましたら、上記のFAX、Eメール等でお声をお寄せ下さい。

いたる広報委員まで。

**採用関連情報**

**就職合同説明会（新卒対象）**

- ・ キャリタス福祉フォーラム | 2022年5月21日（土） TKPガーデンシティ池袋
- ・ あさがくナビ・仙台 | 2022年5月28日（土） イベントホール松栄
- ・ あさがくナビ・就職博 | 2022年6月7日（火） 新宿NSビル
- ・ マイナビ福祉就活イベント | 2022年6月19日（日） 新宿NSビル

**障がい者施設見学ツアー&選考会（新卒対象）**

日時：2022年5月19日・26日・6月2日・9日・23日・30日（木）  
各10：00～ 集合場所：あけぼの作業所

※お問合せ・お申込みは、法人本部・人事採用担当：山本義彦・中川まで  
電話：03-3392-7346 Eメール：jinji@itarucenter.com

見学ツアーのみ参加でもOKです！

法人本部

事務局長 中島 學

- I 人材の採用・育成・定着に向けた取組を強化します。
- II 働きやすく安全安心な職場環境の再整備を行います。
- III 中長期事業計画を策定します。
- IV 法人ガバナンスの継続的な強化に努めます。
- V 施設および事業整備の充実化をバックアップします。
- VI 適正な投資的費用の明確化を図ります。

あけぼの作業所

施設長 池田 佳津男

- I 既存の作業についてさらなる生産性と付加価値を上げ工賃アップを目指します。
- II 経験の年数に関わらず、業務の標準化が出来るように一定の品質と効率を目指し、働きやすい職場を作ります。
- III 社会福祉法人としての使命を実行すべく、地域に溶け込むご利用者様を支援します。

パン工房プク

施設長代理 池田 史暢

- I 事業部の年間黒字を必達目標とし、事業の安定化をさらに進めます。
- II 課題克服に向けご利用者様の教育活動の確保に取り組みます。
- III 焼き菓子等の商品開発を行い、ご利用者様が製造に関われる機会を創出、支援を強化します。
- IV 外販拡大としては、区役所・区民センターなどの既存の販売機会拡大に加え、企業との連携を視野に入れて活動を実施します。
- V パン事業に興味を持つA型利用者の受け入れを引き続き進めます。

クローバー・マルコ

施設長代理 仙石 宏樹

- I コロナ感染症の状況および職員数が通年で4名以上配置という前提条件のもと、8月以降の目標受け入れ数を宿泊で開所日あたり一日平均4泊、日帰りで2・6人を目指します。
- II 地域生活支援等を担う事業所として、緊急要件に対応できるよう開所日確保に努めます。
- III 阿佐谷福祉工房・生活介護事業部との間で職員の支援スキルの統一に努めます。
- IV 利用者支援度合いの数値化の展開の可能性を探ります。
- V 緊急時の受け入れに柔軟に対応できるように、空き室利用について行政と連携して検討を進めます。



阿佐谷福祉工房

施設長 齋藤 直人

- I ご利用者様の満足度を高めることにより、出席率を向上させます。
- II 業務の効率化、適正化により健全な施設運営を行います。
- III 職員のスキル/専門性を向上させます。
- IV コロナ禍の中で安心安全な施設運営に努めます。

イタル成城

施設長 五木田 義之

- I ご利用者様にとっての「安心・安全の提供」を前提に、ご利用者様の自己実現を最大限サポートしていきます。どんな重い障害があっても、地域で自立をめざし、社会参加の機会を最大限に持ち、個々の特性・個性を引き出し、「権利を守る」ことを重視した支援を行います。
- II 応援体制を強化します。
- III サービスの質を向上させます。
- IV 働きやすい環境づくりに努めます。
- V 地域連携を強化します。

ピョピョおうちえん(保育事業)

ゼネラルマネジャー 花山 隆洋

- I 地域に密着した保育所を、安全・安心に運営し、事業を安定稼働させます。
- II 定員枠数の児童を受け入れ、収支バランスの取れた健全な経営をします。
- III 本園では、コロナ罹患防止の取組を継続し、地域の皆さまへの情報発信と子育て支援を積極的に実施し、さらなるご支持をいただける保育所としての基盤固めを継続します。
- IV 荻窪駅前園は、コロナ罹患防止の取組を継続し、地域の皆様に安心してお預け頂ける保育所として保育の質の向上に努めます。
- V 杉並区保育課をはじめとした、行政や、日本保育協会などが提供する保育研修の受講を積極的に行い、保育力の質の向上を図ります。
- VI コロナ感染症の流行下での、地域の子育て家庭に対しての地域貢献の仕組みや方法を模索・検討します。

HOYA事業

責任者 鈴木 健

- I SDGsの一環としてHOYAとの共同事業を行う事により社会貢献活動の一翼を担う一方、全国の社会福祉協議会と連携強化し、福祉施設の工賃アップに貢献します。
- II HOYAとの事業連携を継続的に安定拡大させ、相互の信頼度を高めます。
- III 事業で得た収益をいたるグループの工賃拡大に反映させます。
- IV 全国から集まった自主生産品のサンプルをいたるグループの自主生産品作りのアイデアに役立てます。



令和4年度 事業部方針 重点目標

目黒本町福祉工房

施設長 高木 知子

- I 業務の標準化及び一体化によるさらなる組織力の強化に努めます。
- II 人材育成と定着への職員支援(サポート)制度を基盤とする)を行います。
- III 目黒本町福祉工房のスケールメリットを活用します。
- IV 地域社会への貢献に注力します。
- V 事業継続計画を実践します。

のぞみ寮

- I ご利用者様の高齢化等に伴ってより一層の健康管理に努めるとともに、必要に応じて医療機関との連携を強化します。
- II 目黒本町福祉工房との連携を強め、交流を深めることで、職員の支援力の向上を図り、かつ目黒地区における事業の一体感を醸成します。

さんまるしえ

- I 商品の売上拡大
- II 施設の認知度アップ
- III 顧客満足度アップ
- IV 目黒本町福祉工房との連携強化
- V 喫茶収入の有効活用
- VI SDGsの一環としてのエコ活動の推進
- VII 新型コロナウイルス防止対策

すまいる高井戸

ゼネラルマネジャー 阿久津 庄司

- I 管轄の基幹相談支援センターとの相談支援の連携を充実させます。
- II 緊急時のコーディネート業務
- III 障害福祉サービスを利用していない方の緊急時対応計画の作成、緊急時の対応、必要な連携等を基幹相談支援センターや特定相談支援事業所等と連携をし、支援を行います。
- IV 精神障害者の地域生活を支援する事業
- V 地域移行プレ相談事業や精神障害者の退院支援等を病院や保健センター、区と一般相談支援事業所等と連携をしながら支援を行う。
- VI 地域における意思決定支援、虐待防止、差別解消に向けて取り組みを行います。また、法人や地域の事業所のある支援者を育てていきます。
- VII 相談の質の向上及び保持

- I 日々の面談、訪問および家庭訪問の支援の質をあげることはもちろん、地域移行や退院に向けての支援、緊急時の対応やコーディネートなど、区からの委託を受けた事業を一通りできるスキルを、職員が持つことを目標とします。毎日のミーティングやOJT、外部研修だけでなく、職員会議や面談等で相談員の自己覚知を促し、研鑽に向けて日々の精進を目標とします。

包括ケアセンター

センター長 白瀧 則男

- I 法人所有グループホームの新築建て直しを計画します。女性ホームのからの建替えを検討し、シンフォニーIIと合体して10名の施設とします。
- II グループホームの深夜時間帯の休憩時間を5時間から3・5時間に変更し、就労日数を減らします。そのため、大幅に人員確保を行います。
- III 体制強化支援事業補助金の対象ホームを増やします。体制強化Iを6ユニット、体制強化IIを4ユニット取得し、人員費増加分を補填します。
- IV 入居者の急速な高齢化に対応するため、高齢者グループホームの開設を目指し、高齢者・認知症に対応できる職員の募集及び養成を行います。
- V 事業部の組織を強固にします。一人ひとりに責任と自覚を持ってもらい、専門性を高めるため各種研修を実施、虐待・権利擁護の意識をさらに高め、職員の国家資格取得を進めます。

サポートウイズ

マネジャー 塚田 充昭

- I 法人の理念でもある共生社会の実現のために「誰一人取り残さない」サービスの提供に努めます。
- II いたる式地域包括ケアシステムの実現のため、障害のある方、高齢の方など生活弱者が、住み慣れた地域において自己の尊厳を保持し、自立した生活が続けられるような支援を実践していきます。
- III レジリエントなサービス提供体制を具現化させるための教育や人材育成、人材開発などにも尽力いたします。

SDGs推進室

統括リーダー 渡邊 菜都

- I メンバー就業面、生活面に関するフォローアップを行います。
- II 内勤業務では、メンバーの職域拡大、新規業務・業務変更に関する対応、仕事量の増減に関する対応を強化します。
- III 外勤業務では、引き続き安全に留意し、必要に応じて外勤ルールや外勤ルートを見直し修正します。
- IV コロナにより自宅待機期間が生じる時は、生活リズムの崩れやモチベーションの低下を防ぎ、業務の習熟度を向上させるため、それぞれの状況に応じて業務の切り出しや練習課題などを作成し提供します。
- V 特別支援学校や就労移行支援事業所等の実習生へ業務の割振り、業務指導、業務評価等を行います。
- VI 指導員の勉強会を定期的に実施し、現場での指導に活かせるようにします。